

小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業実施報告書（平成28年度）

（研究指定校用）

研究指定校名	北海道栗山高等学校	栗山町立栗山中学校	栗山町立栗山小学校 栗山町立角田小学校 栗山町立継立小学校
--------	-----------	-----------	-------------------------------------

1 研究テーマ

小中高 12 年間を見通したキャリア教育の体系化
～「くりやま塾」による、ふるさとを大切に思い、地域の未来を担う人材の育成を目指して～

2 研究の目的

キャリア教育の実践において、地域との関わりを見直すことにより、地域に関心を持ち、将来、地域を支える人材として活躍できる生徒を育成する。

3 全研究指定校共通の効果測定

1 学校対象（校長）の回答項目

(1) 小中高の情報共有の状況について

小学校	「小中高キャリア教育運営部会」を設置し、研究指定校 5 校の進捗状況の交流や事業推進上の各校の役割について確認するなど、情報共有に努めた。
中学校	小中高キャリア教育の運営部会を定期的に行い、年間 7 回の意見交換等を行って、事業推進を図った。
高 校	町教育委員会において、学校運営部会を 7 回開催し、定期的に栗山町内の小中高での情報共有を図った。

(2) 発達段階に応じて身に付ける能力等の目標設定について

小学校	12年間を見通した全体計画をもとに、各校の実態に合わせ、発達段階に応じた目標の明確化を図り、目標設定を行った。
中学校	小中高の運営会議を通して、中学校段階で身に付けさせたい能力の到達目標について、明確化を図り取り組んだ。
高 校	目標設定を行うことにより、キャリア体験からの人生設計、ふるさとの魅力への気付き、情報を他者へ発信する能力の必要性等、各取組での内容が明確になった。

(3) 発達段階に応じて身に付ける能力等の定着度合いについて

小学校	年度当初は、児童生徒に受動的な学習姿勢が見られたが、学習が進むにつれ、学びに対する意欲が高まり、自ら課題設定や解決に向け、取り組む姿勢が見られるようになってきている。
中学校	指示待ちの生徒は少なくなってきたのはいるが、あと一步のところ自分で考えずに教師を頼ってしまう部分がある。
高 校	様々な取組の中で、生徒自らの判断によって意見を述べたり、小中生やお年寄りを誘導したりするなど、小中高で設定した「つながる力、自分を見つめる力、行動する力、夢やライフプランを描く力」を、自らの判断によって意識的に活用できるようになってきている。

2 PTA 役員を含む保護者、学校評議員等の学校関係者対象の回答項目

(1) 学校との情報共有の状況について

小学校	学校運営協議会における説明など、情報交換や情報提供を積極的に行ってきた。 【特に印象に残った取組等：稲作体験学習、キャリア教育体験発表会】
中学校	キャリア教育について、特化した会議は行っていないが、PTAの役員会議や学校運営協議会において、児童生徒の活動状況について報告している。 【特に印象に残った取組等：職場体験報告会、キャリア発表会】
高 校	PTA活動を通じて、本事業に関する意見交換を行った。 【特に印象に残った取組等：小中高ふるさとキャリア教育体験発表会】

(2) 地域の教育資源を学校のキャリア教育に活用する状況について

小学校	学校のような教育活動について、保護者や地域住民に情報発信することで理解が得られ、連携した協力体制が充実しつつある。
中学校	職場体験学習は、保護者や地域の理解が得られ、取組に対する意見等があるなど、協力的、好意的に捉えられている。
高 校	小中高PTA連合会組織が一丸となり各学校との連携ができています。特に、「小中高ふるさとキャリア教育体験発表会」での地元企業のプレゼンテーションは、生徒だけでなく保護者にとっても地域を勉強するよい機会となっている。

3 児童生徒（小中学生）対象の回答項目

【項目 1】 ふるさとへの理解と愛着について

小学校	ふるさとへの愛着も持っており、地域行事に参加する児童が多い。また、地域の方々からたくさんのことを学び、ふるさとをより理解できた。学習を進めていく中で、人に伝えたり、発信したりする児童が増えてきた。 【特に印象に残った体験活動：キャリア教育体験発表会、栗の里体験学習、町主催の地域行事・お祭り】
中学校	ふるさとへの愛着を持ち、町内の活動に参加している。人に伝えたり、発信したりする生徒はまだ少ないが、職業体験やキャリア発表会を通じて学んだことを、多くの人に伝えられたと達成感を感じている生徒が徐々に増えてきた。 【特に印象に残った体験活動：職場体験学習・報告会、町主催の行事、お祭り】

【項目 2】 ふるさとの生活に関する興味・関心について

小学校	自分が住む地域の生活や行事、学校行事等への興味・関心が高い。指導する教員が、キャリア教育の視点を明確に持つことにより、学習を通じて理解が深まるとともに、興味・関心が高まった。
中学校	当たり前のように町や学校の行事に参加していたことが、とても貴重で素晴らしい体験活動であることに気付いた生徒が多くいた。

4 生徒（高校生）対象の回答項目

【項目 1】 ふるさとへの理解と愛着について

高 校	くりやま塾講演会やボランティア活動に参加し、ふるさと栗山町への理解と関心が高まった。 【特に印象に残った体験活動：くりやま塾】
-----	--

【項目 2】 ふるさとの生活に関する興味・関心について

高 校	くりやま塾講演会や職業体験等を通じて、ふるさと栗山町の魅力や知らなかった地域産業の力について気付きがあった。
-----	--

【項目 3】 ふるさとで生活を営むことへの興味・関心について

高 校	職業体験や保育実習等を通して、ふるさと栗山町での生活について、具体的なイメージを持つきっかけとなっている。 【特に印象に残った体験活動：保育実習、インターンシップ】
-----	---

4 具体的な研究活動		
項目	取 組	取り組んだ内容等の説明
全 体	①全体計画の見直し	・キャリア全体計画を、校内の教育活動内で具体化するよう努めた。
	②キャリアノートを活用や改善点など	・実際に活用していく中で、7回学校運営部会を開催し、小中高の教員が改善に向けての検討を行った。
地 域 ダ イ ス キ ！ プ ロ ジ エ ク ト	③地域の特性や教育資源を生かした取組	・12月3日（1日間） 「栗山町小中高ふるさとキャリア教育発表会」を実施。 児童生徒による体験学習の発表及び、地域企業・団体による地域の魅力・産業について児童生徒への紹介を行った。 （対象：小21、中21、高28、参加：保護者・地域関係者・教育関係者100）
	④講演会の実施	・6月22日（1日間） 第2回くりやま塾講演会を実施。 講師：栗山町長 椿原 紀昭 様 演題：「栗山町の魅力と町民が主役のまちづくり」 （対象：高207、参加：教職員20、教育関係者32） ・2月10日（1日間） 第3回くりやま塾講演会を実施。 講師：富士大学長 岡田 秀二 様 演題：「地球と地域を救う緑の産業革命」 （対象：高1、2年135、参加：教職員20、教育関係者20）
子 ど も ダ イ ス キ ！ プ ロ ジ エ ク ト	⑤座談会の実施	・10月20日（1日間） 「栗山町育児サークルと高校生との座談会」を実施。 栗山町子育て支援センターにおいて、子育て中の母親に高校生が子育てに関する質問を行い、レポートにまとめる学習を行った。 （対象：高3年12「選択授業、生活と福祉」）
	⑥出前授業の実施	・12月15日（1日間） 次代の親づくりのための出前授業を生かした「テーマ学習」を実施。「児童虐待」をテーマに、生徒が情報をまとめ、意見交換を行った。（対象：高1年62、参加：町教育関係者10）
	⑦家庭科副読本を活用した授業の実施	・10月～11月 「家庭科」副読本の活用した授業を実施。 少子化の状況と地域の子育てに関する取組について、プリントで情報をまとめ、グループごとに発表し、意見交換を行った。 （対象：高1年62）
そ の 他	⑧その他、本事業に関連する活動の実施	・6月15日（1日間） 町内一斉清掃を実施。（対象：高全207） ・12月8日（1日間） 老人クラブ中里長寿会交流会を実施。お年寄りを高校に招いて、ゲームや調理実習を行い、交流を深めた。（対象：高3年22） ・1月5日～13日（9日間） 栗山町少年ジェット希望の翼へ参加。オーストラリアでのホームステイを体験した。（対象：中3、高2） ・2月20日（1日間） くりやま子ども会議を実施。いじめについて意見交換を行った。 （対象：小10、中6、高4）

5 研究の結果と今後の取組**(1) 研究の結果**

- 地域人材を活用した講演会「くりやま塾」を通して、児童生徒は自分たちの地域をより深く知り、ふるさとへの関心が高まった。
- 「子どもダイスキ！プロジェクト」の一環として行った、栗山町育児サークルと高校生との座談会や保育実習の中で、高校生が小学校入学前の子どもたちに触れ合うことで、将来の子育てに関わるイメージをつくることができた。
- 全体計画の見直しを通して、高校の教員が、高校のキャリア教育を小中学校から連続性のあるものとして再確認し、高校教育だけでなく、小中学校の教育内容について関心を高めることができた。
- 本事業の取組を通し、教員が育成すべきキャリア能力を明確にすることができた。また、教育資源としての地域の産業や特色について関心が高まった。
- キャリア教育の全体計画と現在の教育活動の一層の関連性を図り、各取組の指導の充実を図る必要がある。
- 継続的なキャリアノートを活用により課題を明確化し、改善を図る必要がある。
- 多くの児童生徒が小中高ふるさとキャリア教育体験発表会を経験できるよう、実施方法を工夫する必要がある。
- くりやま塾を継続的に開催するためにも、より多くの地域人材を確保する必要がある。

(2) 今後の取組

- キャリア全体計画とこれまでの教育活動との整合性と重複する取組について整理する。
- キャリアノートは、各校種とも年間計画に位置づけ、学習指導要領に則った取組の体系化を行う。
- 小中高ふるさとキャリア教育体験発表会に一人でも多くの児童生徒が参加できるよう、計画的に準備を進める。
- 地域で教育力を持った講師のデータベース化を進めるなど、くりやま塾の在り方を検討する。

6 活動の記録

〔栗山町小中高ふるさとキャリア教育発表会〕



〔小学生発表〕



〔中学生発表〕



〔高校生発表〕



〔企業プレゼンテーション〕

〔実施日〕

平成28年12月3日（土）

〔実施時間〕

9:15～12:45

〔実施場所〕

北海道栗山高等学校体育館

〔運営者又は講師等〕

- ・栗山小学校
- ・角田小学校
- ・継立小学校
- ・栗山中学校
- ・栗山高校

〔協力先、連携先等〕

- ・栗山町内企業（オークランド、植物育種研究所、松原産業）
- ・栗山町役場
- ・町立介護福祉学校
- ・北海道銀行

〔参加者〕

- ・栗山小学校5年生7名
- ・角田小学校5・6年生4名
- ・継立小学校5・6年生10名
- ・栗山中学校1年生21名
- ・栗山高校生28名
- ・保護者、地域関係者、教育関係者100名

〔実施内容〕

- ・小中高生それぞれによる、職業体験の発表
- ・地域企業・団体による地域の魅力や産業についての紹介
- ・栗山町総務課長、北海道教育委員会による講評

〔実施後の児童生徒の変容〕

高校生は、小中学生への発表活動を行うことにより、他者へ説明することに対し自信を持つようになった。また、企業からの説明を聞くことにより地域への関心を高めた。

〔その他〕

[研究内容くりやま塾講演会（第2回・第3回）]

【第2回】



[栗山町長による講演]



[栗山町広報記事]

【第3回】



[岡田学長による講演]



[北海道新聞記事]

[実施日]

- ・第2回 平成28年6月22日
- ・第3回 平成29年2月10日

[実施時間]

- ・第2回 14:20～15:10
- ・第3回 13:30～15:00

[実施場所]

北海道栗山高等学校体育館

[運営者又は講師等]

- ・第2回 栗山町長 榎原 紀昭 様
- ・第3回 富士大学学長 岡田 秀二 様

[協力先、連携先等]

- ・栗山町役場
- ・富士大学

[参加者]

- ・第2回 栗山高校生207名、教職員20名、教育関係者32名
- ・第3回 栗山高校生135名、教職員20名、教育関係者20

[実施内容]

- ・第2回 演題「栗山町の魅力と町民が主役のまちづくり」
- ・第3回 演題「地球と地域を救う緑の産業革命」

[実施後の児童生徒の変容]

町長から栗山町の取組や将来像を聞くことで、町の取組への関心が高まった。

大学の学長からの様々な視点からふるさとの見る重要性を聞き、進路への関心が高まった。

[その他]

[栗山町育児サークルと高校生との座談会]



[子育て中の母親と交流]



[母親に質問する生徒]

子育て中のお母さんと交流・栗山高校

2016年10月20日

栗山高校（佐賀県立）の生徒が20日、子育て支援センターで子育て中のお母さんと座談会を行いました。同校2年生の「生徒と福祉」を演習した11人と、育児サークルの親子10組が参加。座談会は、「子どもを産んでみて何が大変だったか」とな手紙を書いてほしいとのこと。生徒からの質問にお母さんが答える形で進められ、最後には生徒から手作りのスタンプが贈られるなど和やかな雰囲気で行われました。座談会に参加した高橋聖子さんは「子育ての苦労などを聞いてもらって良い交流ができました。このことを将来に役立ててくれれば」と話し、2年2組の古川（開太）さんは「子どもの育て方や子育てするお母さんの目が随分ととても良かったです」と語っていました。



[栗山町広報記事]

[実施日]

平成28年10月20日

[実施時間]

10:45～11:35

[実施場所]

栗山町子育て支援センター

[運営者又は講師等]

- ・栗山町役場住民福祉課福祉
子育てグループ 宮林 葉月
- ・栗山高校 家庭科教諭 川上 美知代

[協力先、連携先等]

栗山町子育て支援センター

[参加者]

栗山高校生12名

[実施内容]

栗山町子育て支援センターにおいて、子育て中の母親に高校生が子育てに関する質問を行い、レポートにまとめる学習を行う。

[実施後の児童生徒の変容]

小さな子を持つ親から直接話を聞くことで、自分の将来の家族像を真剣に考えるようになった。

[その他]

[子どもダイスキプロジェクトと関連した事業（保育実習）]



[楽器の演奏]



[1年1組 屋外での園児との遊び]



[1年2組 室内での園児との遊び]

[実施日]

平成28年9月15日(1年2組)

9月20日(1年2組)

[実施時間]

8:45～10:00

[実施場所]

栗山町いちい保育園

[運営者又は講師等]

栗山町いちい保育園 園長 福士 由香里

栗山高校 家庭科教諭 川上 美知代

[協力先、連携先等]

栗山町いちい保育園

[参 加 者]

栗山高校1年生62名

[実施内容]

- ・ 保育園の園長から、園児の接し方や留意事項について指導。
- ・ 高校生が小グループに分かれて、園児に楽器の演奏、歌、劇、絵本の読み聞かせなどを実演する。
- ・ 園児と室内又は屋外で一緒に遊ぶ。
- ・ 保育園の先生と高校生が感想や意見交換を行い、体験した感想や園児への接し方等、本日の活動内容を振り返る。

[実施後の児童生徒の変容]

園児保育を体験することを通して、子育てへの関心や思いやりの心が高まった。

[そ の 他]

〔稲作体験学習：田植え〕（栗山小学校）〕



〔転んでもにっこり〕



〔真剣なまなざし〕

〔実施日〕

平成28年 5 月20 日（金）

〔実施時間〕

3 ～ 4 時間目

〔実施場所〕

栗山町内 富士長尾農場

〔運営者又は講師等〕

農場主 長尾 康司

栗山小学校教諭 2 名

〔協力先、連携先等〕

富士長尾農場

〔参加者〕

5 年生72名（1 組36名、2 組36名）

〔実施内容〕

田んぼや栗山で育てている米について説明を受け、田植えの仕方を教わった。田植えの体験後、他の田畑の様子や田に住む水生生物を観察した。

〔実施後の児童生徒の変容〕

事前学習で米づくりの大変さや苦労を学び、実際に体験することで、より仕事についての理解が深まった。「これから一粒一粒のお米を大事に食べたい」「今後米がどのように育っていくのかしっかり観察したい」という意見があった。バケツ稲で成長を観察しながら、稲刈りまで栗山の米づくりや農家の仕事について学びを深めた。

〔そ の 他〕

〔稲作体験学習：田植え〕（角田小学校）



〔上級生が下級生に教えながら〕



〔どろだらけでもニコリ〕

〔実施日〕

平成28年 5 月 26 日（木）

〔実施時間〕

10:30～12:00

〔実施場所〕

小学校そばの水田

〔運営者又は講師等〕

- ・有限会社粒里 取締役 田村 賢治
- ・小学校全職員 10名

〔協力先、連携先等〕

有限会社粒里

〔参加者〕

全校児童47名、保護者 8 名

〔実施内容〕

- ・昨年度から全校児童で実施。
- ・全校縦割り班ごとに区画を決めて、上級生が下級生の面倒を見ながら実施した。

〔実施後の児童生徒の変容〕

児童は作物への愛着を持つようになった。地域の方から学びながら、協力して作業することの楽しさを感じている様子が見られた。

〔その他〕

〔稲作体験学習：稲刈り〕（継立小学校）



「刈る・運ぶ・縛ってはさがけする」の 3 グループに分かれて作業が始まった稲刈り。子供たちは鎌を使い手作業で稲を収穫した。学年が上がるにつれ作業の進め方が上手になり下級生に鎌の使い方を教えるなど、積み重ねた学習の成果を発揮していた。中には自分用の作業着や丈夫な手袋など、万全の準備をする児童の姿もあった。収穫した米はこのあと炊飯学習で使用するほか、地域の授産施設に寄贈される。



〔広報くりやま 新着情報 9 月 20 日〕

継立小学校の 3 年生から 6 年生までの児童 31 人が 15 日、校舎横の片山肇さんの水田で稲刈りを体験した。児童は刈取りや運搬、束ねて縛る係などを班ごとに交代で行い、元気いっぱい収穫を開始した。5 月 20 日に植えた「ゆめぴりか」の稲に鎌を入れた。収穫した約 200kg の米は 11 月の炊飯学習で味わった。6 年生の児童会長は「刈るのは楽しかったけど、運搬するのが大変だった。とれたお米でカレーライスを食べるのが楽しみ」と話していた。

〔実施日〕

平成 28 年 9 月 15 日（木）

〔実施時間〕

10:25 ～ 12:00

〔実施場所〕

片山農場（栗山町字継立 校地の隣）

〔運営者又は講師等〕

片山 肇（農地貸出・日常の管理と助言）

〔協力先、連携先等〕

- ・北海道空知総合振興局
空知農業改良普及センター空知南東部支所
産業振興部南部耕地出張所
- ・栗山土地改良区（水土里ネットくりやま）〔協力先、連携先等〕

〔参加者〕

- ・3 年生～6 年生 31 名
- ・教職員 9 名

〔実施内容〕

- ・事前準備
- ・当日の内容
集合・開会式（進行～6 年生）、作業、後片付け
閉会式（進行～6 年生 感想発表は各学年 1 名）

〔実施後の児童生徒の変容〕

田植え、草取り、稲刈り、炊飯学習のサイクルで行った学習以外にも、例えば、3 年生社会科の学習で田のしろかきや水の調整などについて学習する際にも、貸与された田の観察をするなどして学習を深めていった。

〔その他〕

〔職場体験〕（栗山中学校）



栗山小学校への職場体験学習において、小学校2年生の教室で、担任教諭からアドバイスを受けながら教壇に立つ。その後、学習プリントの採点等も行い、児童とのふれあいが深まる中、教育への関心がさらに高まった。



町内企業である谷田製菓での職場体験学習。日頃よく見ている商品の製造に加わることで、作業手順だけでなく、品質維持への企業努力等について学んだ。

〔実施日〕

平成28年10月13日（木）～14日（金）

〔実施時間〕

9:00～16:00

〔実施場所〕

栗山町内全域

〔運営者又は講師等〕

栗山町内各事業所（38か所）の担当者

〔協力先、連携先等〕

栗山町内各事業所（38か所）の担当者

〔参加者〕

栗山中学校1年生87名

〔実施内容〕

- ・2日間の職業体験学習
- ・事前学習を学校と事業所の両所で実施
- ・実施後のお礼状作成
- ・職場体験学習報告会の実施
- ・キャリア発表会への参加（2班を選抜）

〔実施後の児童生徒の変容〕

生徒はふるさとの良さについて学び、地域の人々や施設等についての関心が高まった。

〔その他〕